

平成27年～30年度 文部科学省指定
大分県宇佐市小中高一貫教育 研究開発学校

「地球未来科」の設置



1. 地球未来科の特徴
2. 生徒の変容
3. 連携教育における役割と今後の取組

大分県立安心院高等学校
外9校

「地球未来科」とは

地域の連携校で地域を題材にしKEY STAGEを取り入れた探究学習

①KEY STAGE

評価規準の区切り 単年度→KEYSTAGEごとへ

②12年間

12年間で1つの教科として考えることにより
教育活動を俯瞰的に捉えることができ、
異なる校種間による学習の重なりを精査できる

③地域素材

身につけさせたい力を意識した教材開発

④連携教育

新教科をつくる過程や組織体制が連携教育の基盤を強固にできる

本**地域**の研究の特徴

【KEY STAGE制】

地球未来科での設定は

30年度まで

31年度から

KEY STAGE 1 →

小1・2年

→

小1・2年

KEY STAGE 2 →

小3・4・5年

→

小3・4年

KEY STAGE 3 →

小6・中1・2年

→

小5～中2年

KEY STAGE 4 →

中3・高校

→

中3～高校

校種の繋がりを意識

校種＋他教科との
連携を意識

評価規準の作成 その1

	捉える（関わる）力	解決する力	英語をツールとした コミュニケーション力
KEY STAGE 1 小1, 2年	○身近なひと・もの・ことに意欲的に目を向け、自分とのつながりに気づくことができる。	○くり返し試したり確かめたりしながら、気づいたことを言葉や絵で表して交流し合い、比べ合うことができる。	○色や生き物など学習と関係のある単語を歌やチャンツを通して楽しむことができる。 ○簡単な挨拶ができる。 ○遊びや学びの中にある素材をもとにALT等との交流を通して他国との違いに気づくことができる。
KEY STAGE 2 小3～5年	○身近なひと・もの・ことに主体的に関わり、新しい知識や価値を探ることができる。	○情報・資料収集した内容を、思考ツールを活用して整理分析し、調べたことを伝えたい相手に分かりやすく伝えたり、比較し合ったりすることができる。 ○活動を振り返り、素材を活用した新たな活動を想起・実行できる。	○家族や曜日など学習と関係のある単語を歌やチャンツ、ゲームを通して慣れ親しみながら使うことができる。 ○簡単なやりとりができる。 ○学校や地域のよさをALT等との交流を通して気づき、他国と自国の文化の相違点を知ることができる。
KEY STAGE 3 小6～中2	○身近なひと・もの・ことに関わりや他の地域との違いから、主体的に課題を発見できる。	○追究するために、情報・資料収集、資料活用をして分かりやすくまとめ、相手を考えて効果的に伝えたり、比較し合ったりすることができる。 ○活動を振り返り、新たな課題設定ができる。	○自分のことや地域の特徴や魅力を簡単な英語で伝えることができる。 ○国際的な情報をもとに、ALTや留学生等との交流を通して、多様な視点で考えていくことができる。
KEY STAGE 4 中3～高3	○世界の諸地域との比較や社会の変化に目を向け、地域の特性を考察することにより、地域の価値や課題を見つけ、主体的に社会参画できる。	○追究するために、情報を取捨選択し他者の意見や主張を評価したり、建設的に評価したりし、多面的なものの見方や考え方を身につけることができる。 ○活動を振り返り、国際的視野に立った問題の解決のために自分と地域、社会をつなげて考えることができる。	○留学生や観光客等との交流を通して簡単なQ&Aができる。 ○ALTや留学生等と国際的視野（柔軟で多面的な思考）で協働プランを実践できる。

評価規準の作成 その2

安心院・院内 小中高一貫教育「地球未来科」を通して身につけたい力一覧

地球未来科目標		地域の課題や地球規模の課題についての、課題解決的、体験的な学習を通して、「社会の諸問題に関わろうとする意欲をもち、論理的思考力とコミュニケーション力を駆使し、グローバル社会を主体的に生きようとする児童生徒」の資質能力を次のように育成する。											
		(A)「国際的視野で地域を捉える力」…地域のひとものことに関わったり、地域と世界とを比べたりしながら視野を広げ、多様な情報の中から、地域のおよや課題を見つねることが出来る。 (B)「地域の課題を国際的視野で解決する(工夫する)力」…地域の課題を設定し、必要な情報を収集・選択・活用しながら解決の方向性を導き出し、自他の役割を考へながら協力して主体的に行動できる (C)「英語をツールとしたコミュニケーション能力」…自他の違いに気づき、相手に適切に伝えたり相手の言葉を適切に理解したりすることにより、言語や国籍を超えて人間関係を築いたり、国際的視野で思考したりすることが出来る。											
段階		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
		キーステージ1			キーステージ2			キーステージ3			キーステージ4		
視点		身近な体験を通して学ぶ導入期			表現方法や気づきの基礎を作る育成期			学ぶ方法や探究的な態度を育成する充実期			論理的な思考力・表現力や課題解決能力を育成する発展期		
つきたい力・視点		自分と身の周り			身近な地域			身近な地域と他の地域			世界の中の両院		
A 捉える(関わる)力		具体的につけたい力～何ができるようになるか(地球未来科で目指す各段階での具体的児童生徒の姿)											
A 捉える(関わる)力	1 関心・意欲	・具体的身近なひとものことに関わる活動に集中して関わり、自分と社会や自然とのかかわりに関心をもつ	・「?」を意識して身近なひとものことと主体的に関わり、相手意識・自己意識を持ちながら、自分なりに工夫したり繰り返して活動をもつ	・身近なひとものことと広い視野で向き合い、課題意識を持って自分なりの工夫をしながら繰り返し活動し、解決のために積極的に取り組もうとする	・世界の中の両院の視点から、設定した課題を解決するための方法を工夫し、主体的、積極的に課題解決のために考えたり、社会参画したりする。								
	生活に生かす・主体的	・自分と身近なひとものことに関心を持って、意欲的に生活や学習をする。	・自分と地域社会とのつながりに気づき、地域に役立つ活動をする。	・活動内容を自分なりに広げたり、深めたりしながら、他者や地域社会とともに学んだことを実践していくとする。	・世界の中の両院の視点を持って広い視野で身近な問題と向き合い、解決策を発信し、実社会の問題解決に取り組む。(社会参画)								
	2 協働	・自分たちの良さを出し合って活動する	・友だちと力を合わせ協働する楽しさや味わい、その良さに気づく	・友だちや地域の人・関係機関と力を合わせて協働する大切さに気づき、問題の解決に向けての取り組みを成し遂げる喜びを感じる	・グループや地域の人、関係機関等とつながりを深め、協力して課題解決のための案を練ったり、積極的に活動したりする。								
	他者理解(国際的視野(の芽生え))	・友だちの存在やよさ、周りの人の支えに気づく	・他者の良さを知り、外国の人を含めて相手の立場に立って考えることが出来る	・他者の良さを認め、外国の人を含めて異なる他者を受け入れながらとらえとらむことができる	・他者の良さや違いを認め伝え合ったり、活動を通して出会った外国の文化や習慣の違い等を尊重したりすることができる。								
3 自己理解	振り返り(自分自身)	・集団生活に馴染み、集団における自分自身の存在に気づく ・自分自身の成長に気づく	・振り返りを通して、自分のよさやできごと、成長したこと、自分らしさに気づく	・振り返りを通して、自分の特徴や可能性に気づき、それを発揮するとともに将来の生き方につなごうとする	・振り返りを通して身につけた力を自覚することで、自分の可能性に気づき、進路選択等将来の生き方につなごうとする								
4 課題の捉え	事象的知識・概念	・自分と身近な人々、社会及び自然に親しみの気持ちや愛着をもつ ・自分の周りには何かがあるのかを知り、それと自分とのかかわりを理解する	・地域には何かがあるのか、地域の特徴・新しい価値を見つける ・地域の暮らしやそこで生活する人たちの思いや願いを知り、連携協力して実現しようとしていることを知る。	・地域の自然・文化・産業等の価値を価値を探るとともに、他地域との違いから、解決すべき課題を見つける ・地域の課題を解決・克服するために様々な人が関わり活動していること、他地域と関わりながら価値を高めていることを知る。	・世界の諸地域との比較や社会の変化に目を向け、地域の特性を考察することにより、地域の価値や解決すべき課題を見つける ・地域の自然・文化・産業等には限りがあり、課題解決のために様々な人がビジョンを描いて維持・継続・更新のために努力していることを知る。								
B 解決する力		1 課題発見・課題設定であらみつける(願いを待つ)	/対象との出会いや具体的な活動や体験をおとじて、自分の思いや願いをもつ	・生活や学習の中の疑問や驚きから問題に気づいたり、自分たちが暮らす地域に目を向け、経験や既習事項と関連させて考え、課題を作る。	・自分たちを取り巻く社会に目を向け、経験や既習事項と関連させて、多面的に見つめたりして考え、課題をつくる	・自分たちを取り巻く社会に広く目を向け、対象を多面的に捉え、活動の意図や目的を明確にしたりして課題を設定できる (既知の課題ではないが、社会や地域的に意義があるか、自分たちの興味関心や探究し課題か)							
2 情報収集(活動する)		・家族や地域の人に関わり、資料を集めたりする ・図書館の本などから見つける ・見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして、直接働きかける	・目的に応じた対象を決めて、自分たちの身近なところから資料や情報を集める ・聞き取りやアンケートで情報を集める ・パンフレットやインターネットなどから情報を集める。 ・大切なところにアンダーラインを引く。 ・必要な情報を選んで、メモや写真などの情報を記録を残す	・目的に応じた対象を決めて、目的・目的に応じた方法で効果的・効率的に資料を集める(アンケート、インタビュー、実験、観察、実地調査など) ・他者の意見や課題解決の方向性から、必要な情報を取捨選択する	・説明する、共同作業を行うなど直接的な関わりを持つ。 ・仮説立てと検証の目的を持って、情報収集の計画を立て、実験、観察、実地調査、アンケート、インタビューなどを行う。 ・客観的なデータが得られる方法を選択し、活動や発表の強い論拠となるようにする。								
3 整理・分析スキル(感じる考える)		・ウェビングなどの簡単な思考ツールや、比べる・分ける・つなげる・たとえるなどの考える技を使って考える。 ・生活上必要な習慣や技能を身に付ける	・視点を明確にして、比較、分類、関連づけなどの思考スキルを使い、適切な思考ツールを活用して考える。 ・情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた思考スキル・思考ツールを身に付ける。	・視点を明確にして、他者の情報と比較したり体験したことと資料を効果的に関連づけたりして考え、社会・経済などの視点から、多面的・総合的に考える。 ・情報を比較・分類・関連付けたら、多面的に見ると、探究の過程に応じた技能を身に付ける。(思考ツールの活用→独自の思考ツールや表・思考ツールなどで考える)	・量的な情報を、適切に整理・分析・加工し、相手に分かりやすい見せ方の工夫をする。 ・社会、経済、国際交流などの視点から複雑に絡み合っている情報を、多面的総合的に整理して考える。 ・情報を取捨選択し、他者の意見や主張を建設的に評価したり、多面的なものを見方考え方を身に付ける。(探究の過程に応じた適切な思考ツールを活用したり、創造したりして、情報を整理する。→思考ツールなどで考える)								
4 まとめ表現(表現する・行為する)		・言葉、絵、動作、劇化などによって表現する ・相手を意識して、(楽しめるように)働きかける。 ・「I like ~、What do you ~?」などの簡単な表現を使って、やり取りができる。 ・活動を通して気付いたことや楽しかったことなどを、順序よく相手を意識して話す。	・観察や聞き取りなどで調べたことを自分なりにまとめた表やグラフを使って整理して表す ・他者の考えを尊重しながら、自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく発信する ・相手や目的に応じて、多様な方法で表現しようとする ・組み立てを考え、中心をはっきりさせて発表する	・活動の過程や結果、成果などを学んだことを使って、工夫しながらわかりやすく整理して表す ・他者の考えを尊重しながら、自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく発信する。 ・相手や目的に応じて、効果的な方法を選択して、表現しようとする ・資料等を効果的に使ったり、比喩などの表現方法を交えたりしながら、意図を明確にして発表する	・ツアーや協働プランなど実践的な場面を想定し企画するとともに、効果的に実行する。 ・地域や関係機関・関係者等他者から得た情報や考えを考慮しながら、学んだことの結果・提言など自分の考えをまとめ、発信する。 ・相手や目的・意図に応じ、効果的に表現し、相手の理解を得ることができるようになる。 ・資料を効果的に使ったり、比喩などの表現方法を適切に交えたりしながら、より相手に伝わりやすい話ができるようになる。								
5 振り返り(学習方法や内容)		・体験や活動を振り返り、次の活動に活かす	・友だちとともに視点を明確にして活動を振り返り、次の活動に生かす	・友だちとともに視点を明確にして学習の仕方や活動を振り返り、次の学習に活かす	・振り返りの中で明らかになったことを論拠として、国際的視野に立った問題の解決のために自分と地域、社会をつなげて考えることが出来る。								
コミュニケーション(スキル)		・活動を通して気付いたことや楽しかったことなどを、順序よく相手を意識して話す。	・相手や目的に応じて、多様な方法で表現しようとする ・組み立てを考え、中心をはっきりさせて発表する	・相手や目的に応じて、効果的な方法を選択して、表現しようとする ・資料等を効果的に使ったり、比喩などの表現方法を交えたりしながら、意図を明確にして発表する	・相手や目的・意図に応じ、効果的に表現し、相手の理解を得ることができるようになる。 ・資料を効果的に使ったり、比喩などの表現方法を適切に交えたりしながら、より相手に伝わりやすい話ができるようになる。								
C 英語をツールとしたコミュニケーション力		1 表現・コミュニケーション	(キーステージ1、2) 慣れ親しむ (キーステージ3、4) speaking writing プレゼンテーション ・ 配当単語を使った学習活動(歌やチャンソング)などを通して楽しむ。 ・「I like ~、What do you ~?」などの簡単な表現を使って、やり取りができる。 ・ 学校や地域の良さや like ~、 This is ~ などの英語活動等で学習した簡単な表現方法で伝えようとする。	・ 教科で学習した英語表現を使って、簡単な日本語を英語に言い換えてみる ・ 地域の情報(特徴や魅力)や自分の意見をまとめた英語で表現し、伝えることができる。 ・ 学校や地域の良さや like ~、 This is ~ などの英語活動等で学習した簡単な表現方法で伝えようとする。	・ 既習内容を活用しながら表現方法を考え、伝えることが出来る ・ ALTや留学生等と国際的視野(柔軟で多面的な思考)で協働プランを実践できる。 ・ 留学生や観光客との交流を通して、簡単なQ&Aができる。								
2 国際的視野		・ ALT等との交流を通して、外国の遊びと日本の遊びの似ているところや違いを感じながら楽しむ。	・ ALT等との交流を通して、外国との違いや似ているところを見つたり、地域や自国の文化に親しみを感じたりする。	・ ALT等との交流を通して得た国際的な情報をもとに多様な視野を持って考えることが出来る	・ 留学生等との交流を通して、文化や習慣、考え方の違いを尊重し、寛容な態度と広い視野で考えることができる								

ポートフォリオのモデル作成

KEY STAGE 1

KEY STAGE 2

町たんけん かんどうはっ見カード

2年 名前

たんけんに行ったばしょ・見つけたばしょ・見つけたもの・聞いた人

たんけんたいの中 ③

たんけんして、
 ○はじめてはっけんしたこと ○今までよりよく知れたこと
 ○わからなかったこと・もっと知りたいことなどを書きましょう!!!

風



たんけんたいの中は、1はんよかっ
 たのは、川の音と風の音
 です。わけは、たいていは川の
 音を聞くといひ、カホッ、フ
 リします。そしてどうして風の
 この学しゅうでは? ○ ☺ ☹

ここで絵のみ力を広げる方法のメリットデメリット

テレビや新聞やラジオで知
 っても、きょうみをもたない
 が、いろいろかきしれない

広まると、たくさん
 来てくれる

するのには協力してくれな
 いから、しれない

テレビや新聞やラジオを使
 わない人が、いろいろかきしれない

テレビや新聞やラジ
 たくさんの人に広ま

◇あつかえらう (今日考えたこと、学んだこと、自分の考えの変化、なる)

今日、方法のメリットデメリットを考えた
 の班が考えたテレビなどで知らせるこ
 ち、やっぱり、すかしいんじ、ないかなと思
 った。おかげで、デメリットがメリットの2倍ど
 たか、かきしれない。また、かきしれない。去年みた

ポートフォリオのモデル作成

KEY STAGE3

KEY STAGE4

地域の魅力について学び、安心院をPRしよう！
 10月25日 (水)
 (17)番 名前 ()

活動内容	活動報告を日本語で発表しよう	
課題やめあて	「安心院のPR活動」の報告を、日本語で発表しよう。	
評価	S	友だちの発表を自分たちの意見と比較しながら聞いたり、質問したりして、それを自分の考えにいかすことができた。
	A	友だちの発表を自分たちの意見と比較しながら聞いたり、質問したりすることができた。
	B	友だちの発表を聞いたり、質問したいことを考えたりすることができた。
	C	発表を聞くことはできたが、質問してみたいことは考えることができなかった。

今日の授業で分かったことや気付いたことを書こう

今日、はじめて、やはりPR活動をして良かったなと思いました。外国人の入れ日本人の人と交流するいい経験でした。安心院の魅力をしっかりと知れて、安心院がすごく好きになりました。これからも安心院に5000人くらい来てほしいです。

今後につなげたいことを書こう

今後、私たちは「安心院の未来」について調べていこう

オリエンテーション
 ()月()日
 学んだこと・考えたこと
 今日の理解度は () (S・A・B・C)

地域の活動家の方との学習

講演 ()月()日()日
 ①()さん
 ②()さん
 ③()さん
 学んだこと・考えたこと
 今日の理解度は () (S・A・B・C)

ラーニング・カフェ ()
 ①()さん
 ②()さん
 ③()さん
 学んだこと・考えたこと

グリーン研究(テーマ:
 学んだこと・考えたこと
 今日の理解度は () (S・A・B・C)

児童生徒への効果

① 捉える力

地域の良さや課題などの認識が深まり
→ 主体的な学びへ

② 解決する力～教科等へ活かす(汎用性)

③ 英語をツールとしたコミュニケーション力

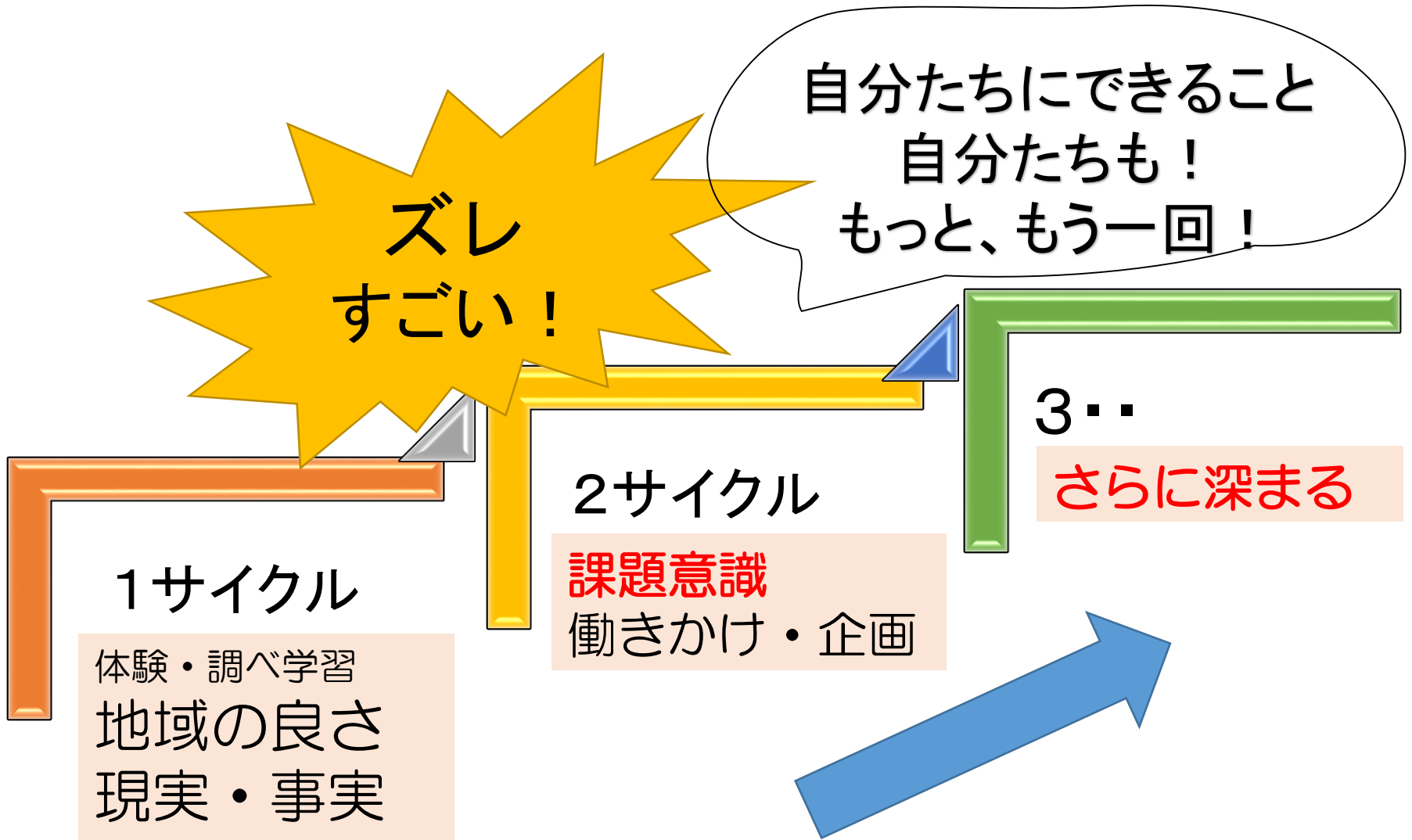
④ 体験・振り返りを繰り返す中で成長を感じる

⑤ ポートフォリオで身についた力を自覚する

⑥ 地域への愛着

→ 地域に貢献したいという目標・自分の生き方

①捉える力～主体的な学びへ



ループリック思考ツール 協働的学び

①捉える力～主体的な学びの姿



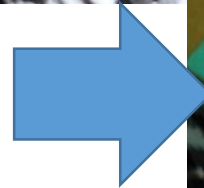
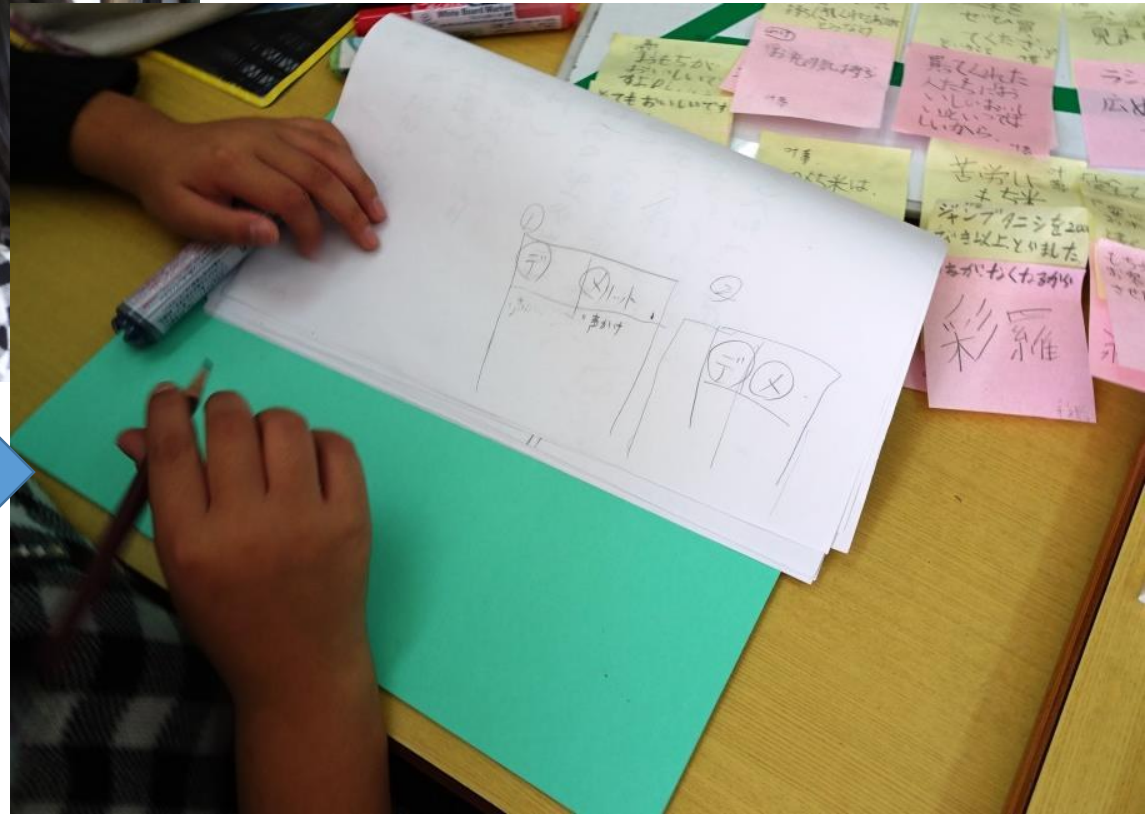
②解決する力

5年生 地域の人に知ってもらおう！自慢の安小米

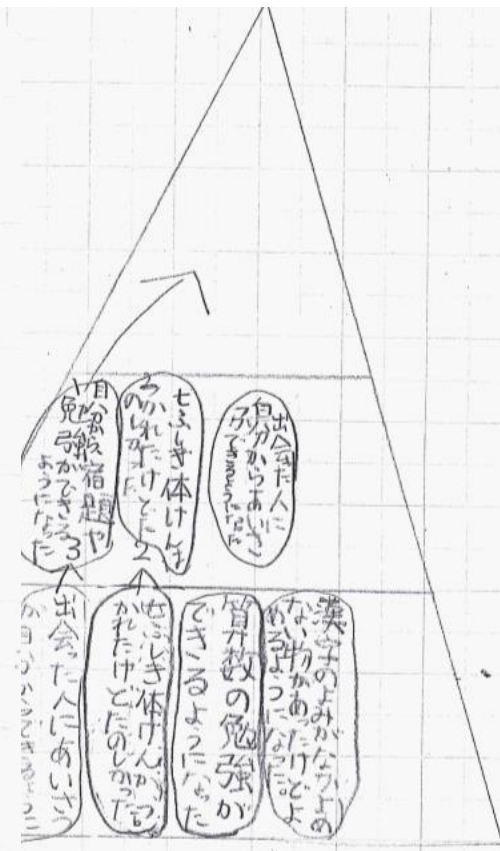
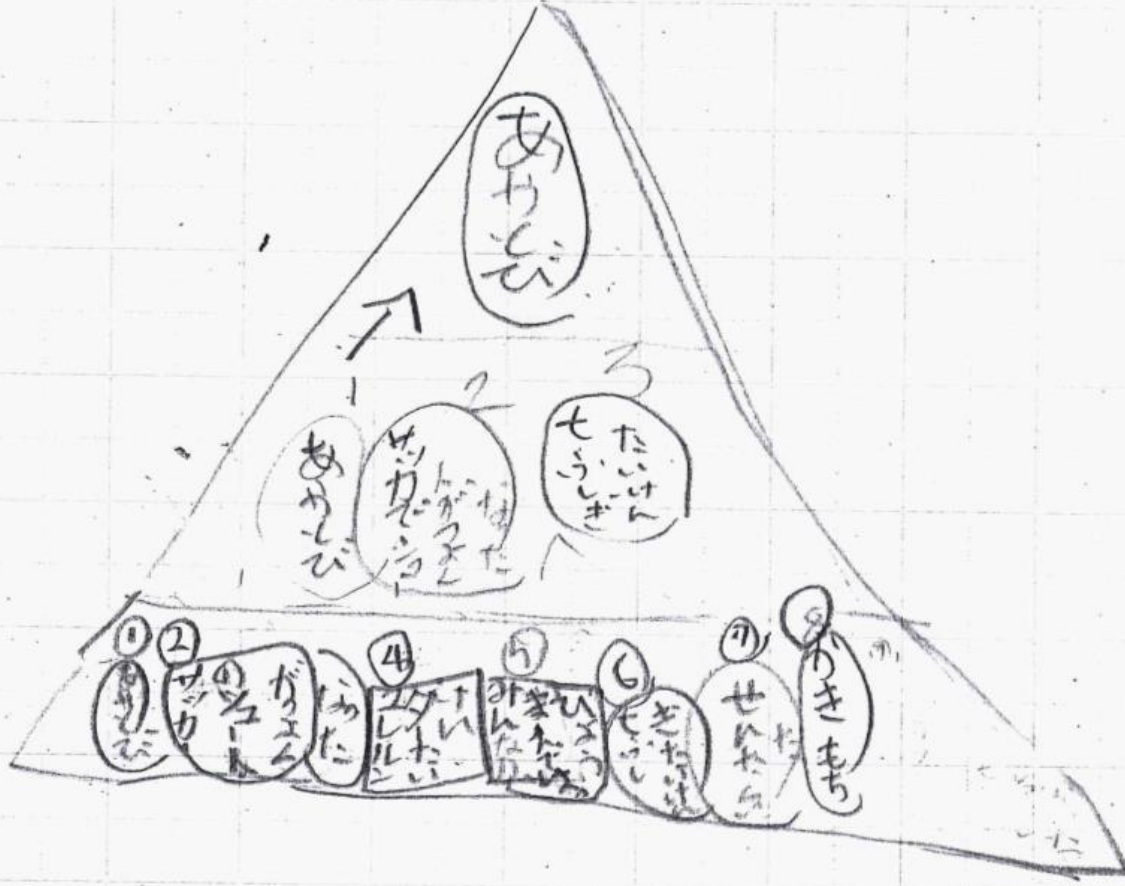
ピラミッドチャート



メリット・デメリットの視点とピラミッドを複合的に使って選ぶとする



②解決する力



3/9
 一年間をふり返り
 私の三大ニュースを書こう。

国語科との関連

意図的に「書く力」につなぐ

もう一度、自分の考えをかき
終わり

中

理由と、それに関係する事例をかき。

自分の考えをかき
はじめ



パンフレット

KEY STAGE 2

わたしは、もし明治時代のこのて絵でどちらがい時代のこのて絵です。その理
す。
一つ目は色がはげている
見やすいところで見やす
から見てもはきり見えるから
二つ目はこのて絵に英語が使われてい
びーダマが使われているからです。この
て絵には、とらの目にびーダマが使
て近くで見たらとらの目が光って
え、とてもかこよくてはくりよ
目立つからです。こよくてはくりよ
このようない理由から、わたしは
のこのて絵が



説明的文章

英語科で身につけた力を活かして 英語のリーフレット・ポスター

Beautiful

Skin-beautifying effect of soft-shelled turtle

Suppon has been eaten in Japan and China since ancient times. Arginine Vitamin A Vitamin D zinc iron



C
olla
gen
it
con

tains a lot like.

Fair skin effect of the grape

The grape is good for skin. Grape include polyphenol a lot.



Colorful

kotee

It is with the iron picture
It is a relief made using the plaster
Which developed in Japan.
Iron picture of Ajimu



Beautiful sight of

Ajimu

It is a heartwarming person and the called spot where I



can touch naturally.



W

onde
rful




A
grape is
delicious

Grape ranking

1th. Shinemuscat 

The commanding lead is the first together with skin without a kind in edible Muscat.

2th. Kyoho 

I am particular about the natural grape with the kind with the grape of the king in Ajimu.

3th. Pione 

Sweet and acidity is balance good.



Suppon is nice and popular.

KEY STAGE3

地球未来科で学んだ内容や身につけた力を活かした個人・班研究



KEY STAGE4

③ 英語をツールとしたコミュニケーション力



④体験と振り返りを通して成長を

1年しんにゆうせいをおせたい！あそびやさんをしよう

振り返る（考える・感じる）

- ・たのしかったな
- ・うめぐみさんのおともだちはルールがわからない人もいたよ

次の課題

- ・おせたいしよう
- ・2年生におためししてみよう

体験2・2年生でおためし

振り返り

- ・たのしかったよ
- ・2年生からアドバイスをもらったよ

次の課題

- ・ボールの大きさ
- ・ならべかた
- ・もういっかいくふう

1年生自分たちで工夫

振り返り

- ・大きいボールより小さいボールの方がいい
- ・うめぐみさんはどうかな

次の課題

- ・せつめいを考えて、しようたいしよう

行為・表現
振り返り

うめぐみさんをおせたい

成長

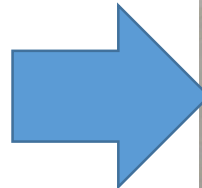
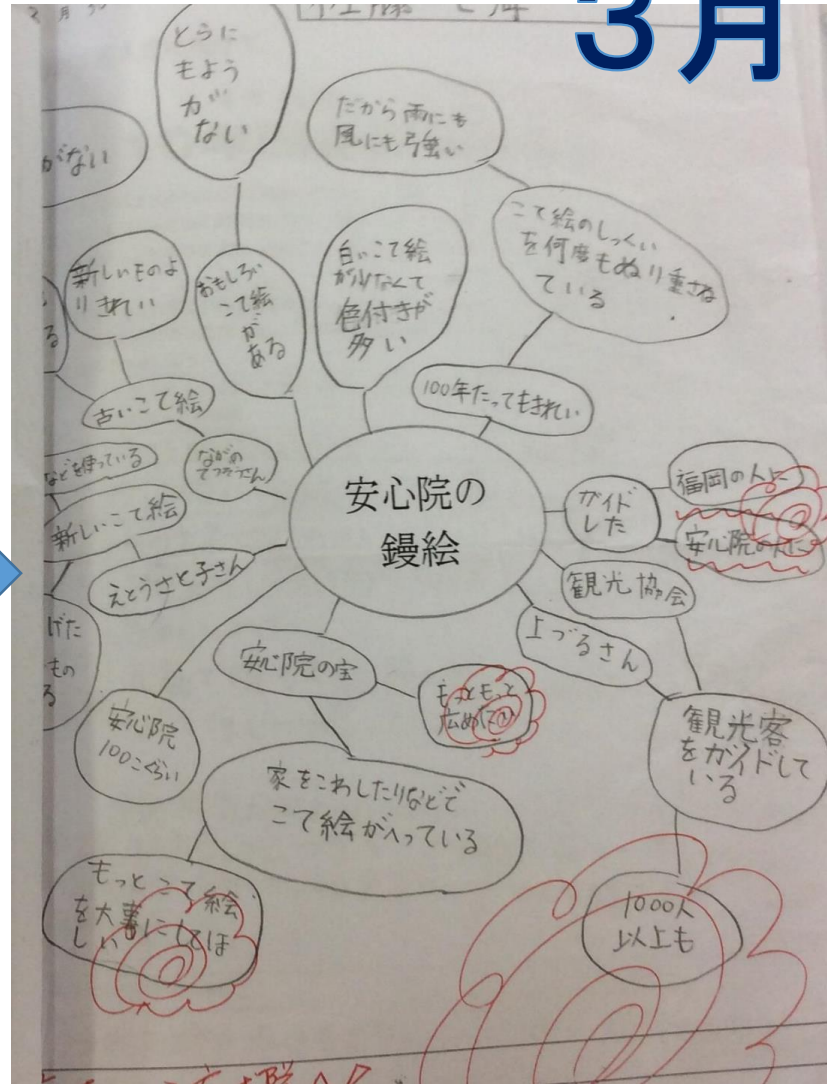


うめぐみさん
どうぞ

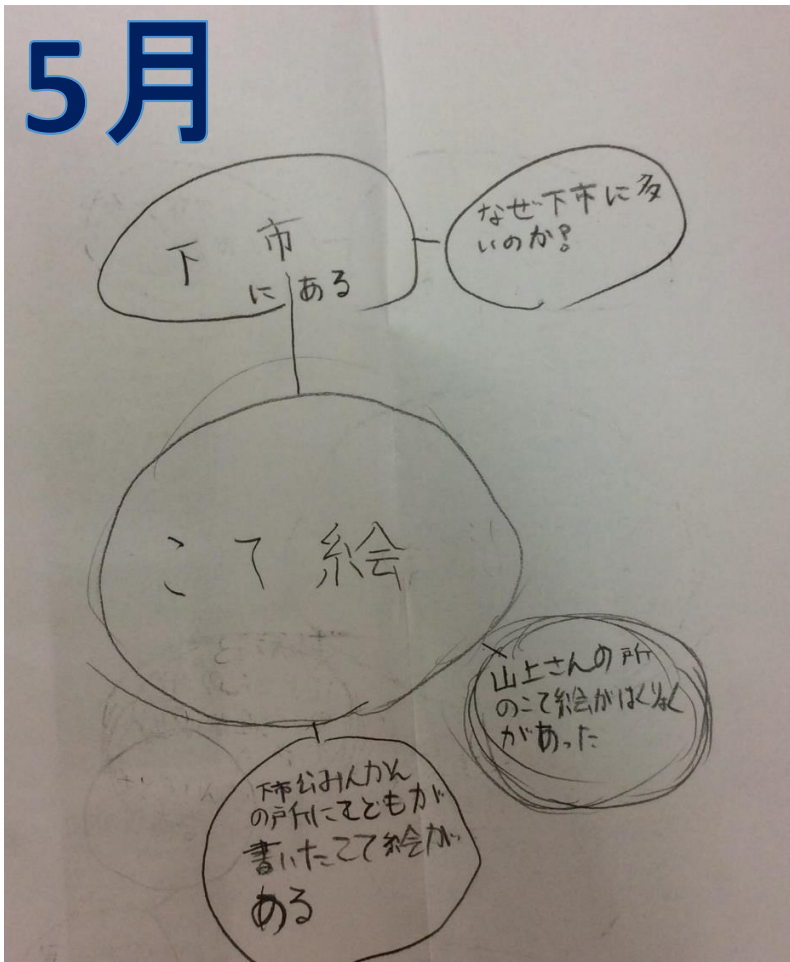
⑤身についてた力を自覚 ポートフォリオを整理

ビフォーアフターの視点で比較

3月



5月



⑤ 身についた力を 自覚

単元後に

ポートフォリオを

整理

ゴールデンツアーのまとめ(企画段階から報告会まで)
2-() No.() Name()

1. ツアーの概要 A → B → C → D * []の中に場所を書くこと
 朝霧の庄 → ワイナリー → 王様のぶどう → []
2. ツアーのポイント(ここがおススメ)
 A: 手軽におみやげ・レストラン
 B: 見学・試飲・展望台
 C: カフェ
 D: []

3. ツアー企画までの取り組みについて

日にち	内容(自分がしたこと)
4月26日	JTBの丸林さんからツアーの作り方の説明を受け、グループ決めを行う。
5月24日	計画をたど
5月31日	今日中におぼろ(計画)
6月7日	発表準備
6月14日	プレゼンテーション①(APU学生の前で発表)
6月21日	次年度のことを決める
7月5日	聖心院について調べ
7月12日	調べる。
7月19日	プレゼンテーション②(朝霧の庄・ワイナリー・王様のぶどう)

4. 感想 * 次の①～③を必ず入れて書くこと。

- ① 苦労した点(これは困った)
- ② 工夫した点(ここをがんばった!)
- ③ 次年度に引き継ぐこと(こうしてよかった!・こうすればよかった…)

ツアー企画の場所の決定に悩んだ。プレゼンテーションをする前に、実際に現地に視察に行った。実際に行ってみて楽しかったことをみんなに伝えることに苦労した。結局、おぼろ伝えることはできなかった。現地に行き、写真を撮ったりしたけど、もう少し楽しそうにしている写真を撮ればよかった。もう少し写真を活用して、いい所ですとアピールすればよかった。写真を撮るときは、目的のものだけでなく、自分たちが映っている(楽しそう)ものをおぼろと思う。チーム航みたい感覚にもうちょっと明るく楽しそうにプレゼンテーションをするべきだと感じた。そこがいいですと伝えるには明るく楽しそうに発表するのが一番だと思った。プレゼン、カリギリで作ったので、原稿をあまり覚えておらず、ぐだぐだしている部分があったので、余裕をもて準備を来年はしていました。

朝霧の庄では、種類が豊富で、手軽に買えていいと思った。ワイナリーがチーズなど生食品も試食でき、おみやげも選べた。ソフトクリーム、作樂場も充実しており、たりでいる場所であった。ワイナリーでは、醸造・見学が存人とうにいいものであったと感じている。おぼろ歩く量がある、探索したいな感じで見学できるので、とても楽しく見学することができた。また、ワインの作り方のビデオや案内などが充実しており、勉強になる部分も多かった。敷地内は木々がおいびらており、癒しの空間であった。また、書作されたガラスの展示もあり、とてもきれいだった。昇っていくと展望があり、聖心院の景色を一望でき、聖心院の景色良さが伝わる感じがした。また、敷地内にあるshopでは、手軽にワインの試飲ができ、店の雰囲気もかきよく、店員さんもすごく親切でいいshopだと思った。ワインの比較も簡単にしやすかった。大人になら、この場所での飲むのもいいと思った。王様のぶどうは、新しく建られた建物であり、雰囲気がかきよく、いい場所だと感じた。店内には、カキがあり、高校生とかでもいまい場所だと思った。店の人がとても明るくおぼろさんで、気さくに話しかけてくれた。僕が一番いい場所だと思ったのは、醸造過程の見学であり、それはみんなにぜひ一回行ってほしい。

⑤身について力を自覚

相手を思いやる力

判断する力

自分について力を意識できていることをか
すまらぬ力



私は…ベン図やたいチャートなどたくさんの思考ツールを使ってきたので、考えることがあると、どのツールを使えばよいと言うことも考えられるようになりました。…

また、もち米を売るときには、ただ売ればよいのではなく、買ってくれる人のことを思ったり、考えたりすることが大切だと思いました。わたしたちが作ったクーポン券を見てくれたり、チラシやポスターを見てくれたり、他の人たちから情報を聞いたりして来てくれたと思ったからです。だからメッセージカードに「ありがとう」と書いたり、お礼を言ったりすることにもつながったと思います。

これまで、3年間安心院のことを学習して、鰻絵通りでもち米を売れてよかったです。そして、ラシュレでもち米を売ることができ、文化祭でも発表できて、みんなにラシュレと「安三米」のことを知ってもらえてうれしいです。

KEYSTAGE4の出口（高3生にみられる変容）

2017年度卒業生徒

AO、推薦入試において、進路決定した生徒が激増。0→8人へ

2018年度卒業見込生徒

高校卒業後や進学先を卒業した後に
地域で活躍したいと考える生徒が増えたことが特徴的。

- | | |
|--------------|---------------------|
| Aさん(園芸コース) | 安心院で稲作を発展 |
| Bさん(園芸コース) | 水産関連業で院内のドジョウのブランド化 |
| Cさん(進学コース) | 地域のコーディネーター |
| DEFさん(進学コース) | 小学校教員、中高教員 |
| Gさん(進学コース) | 安心院盆地の地形活用→農学部→農村維持 |

地域の学校での地球未来科の役割

本地域の学校の課題

連携校

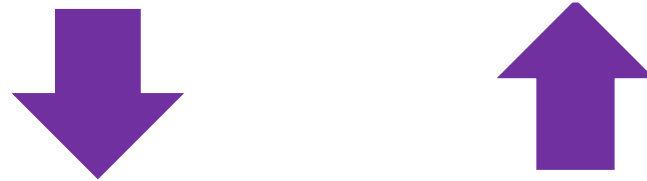


連携教育

- 連携校での連携教育？
- 学力は？
- 専門教科の担当教員がない？
- 集団での学びは大丈夫？

地域の学校での地球未来科の役割

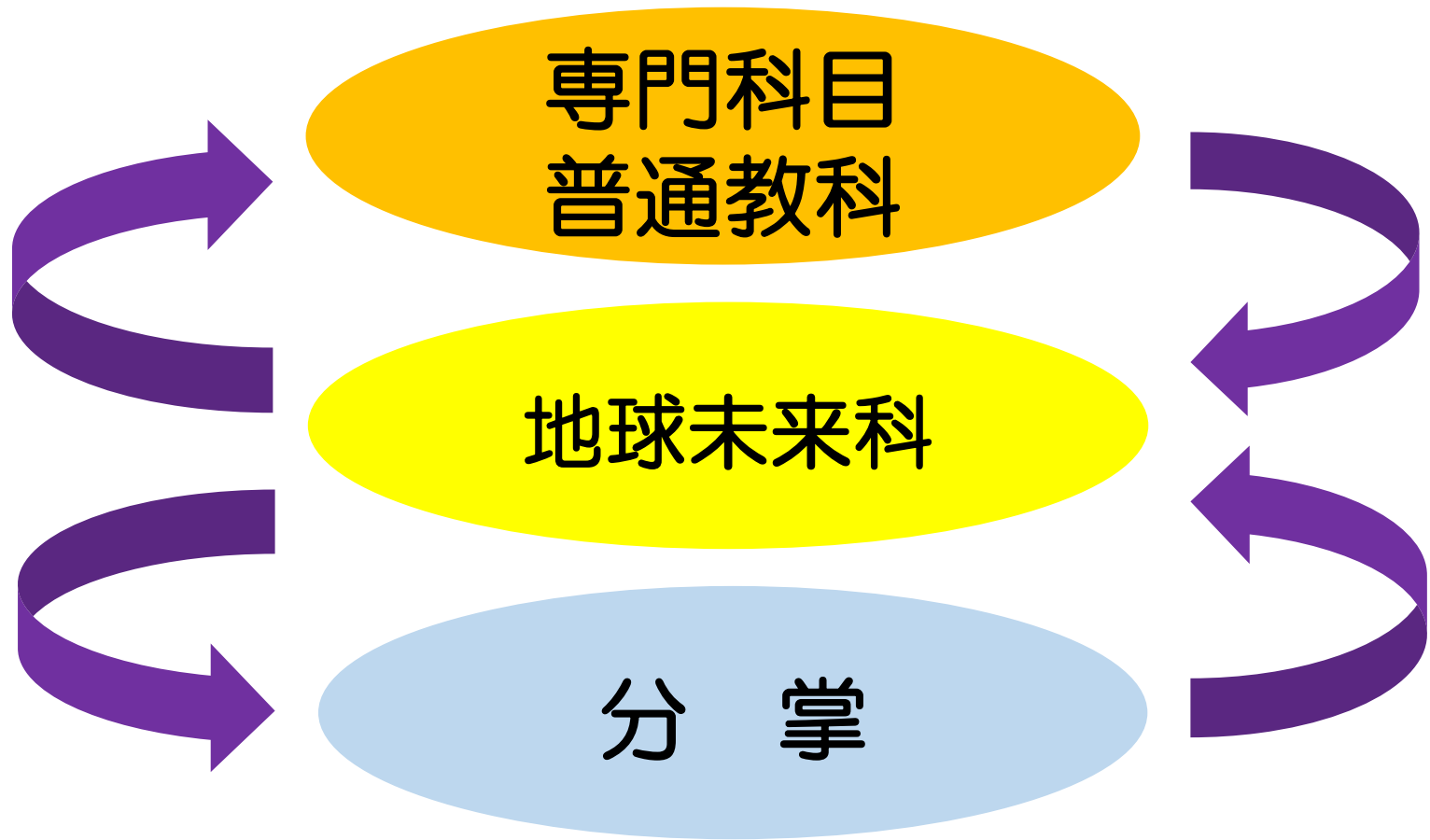
本地域の学校の課題



地球未来科

小中高連携教育

地球未来科を中心とした学校内での連携



スクールプランから学校全体の取組へ

専門科目
普通教科

分掌との連携

授業改善テーマ

地球未来科と各教科との

融合した授業力の向上

- 全職員による合教科的取組の実践例
- 全教科による合教科的研究授業
- 校内一斉授業研究会

地球未来科を中心とした連携校での連携

(例)

小中高合同研修会

評価基準

ポートフォリオ

(連携入試)

校内研究

小中高連携

教育フォー



KEY STAGE 4の 単元設定

単年度からKEY STAGE 4を通じた単元設定へ



安心院・院内学

中3～高1



ゴールデンツアー

高1・2年



個人(班)研究

高2～3年

地球未来科を連携校の教科で発展させる 異年齢集団による学習活動



小学校



中学校



高校

異年齢集団による学習活動



小高 & 地球未来科

小高 & 教科 & 地球未来科



生徒の主体的態度の育成

小中高を繋ぐ教科部会の設置



現場主導型

コーディネータ型

教育委員会型

併設連携型

ご静聴
ありがとうございました。